

## 設計演習Ⅲ

07

## 1. 都賀川沿いに建つ&lt;子育てスクエア&gt;

開講年次：学部3回生前期

[担当教員]

三輪康一(教授) 大西一嘉(准教授) 梶橋修(准教授)

[Teaching Assistant]

加藤実悠(A62) 橋本阿季(A62) 花岡 航(A62)

[OB ゲスト講師者]

宮武慎一(AC10、安井建築設計事務所)

岸上純子(AC院11、SPACESPACE)

## ■課題の概要

現代都市に暮らす人々にとって、子供を産み育てることには様々な課題がある。要因としては核家族化による地縁の希薄化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加、単親世帯の増加などが挙げられる。子育ての負担が親に集中することが、都市でのライフスタイルとの間でストレスを生み、育児ノイローゼや幼児虐待といった招かれざる事態の遠因もなっている。

従来より社会における「発達保障」の場として児童福祉施設は整備されてきているが、現代のような家族観、自然観が多様化する時代において、都市は子供達に、また子供を育てる親たちに、どのような場所を提供すればよいだろうか。本課題では以下に挙げる3つの方向性からひとつを選択し、子供のための空間、都市における福祉のあり方について考えてもらいたい。

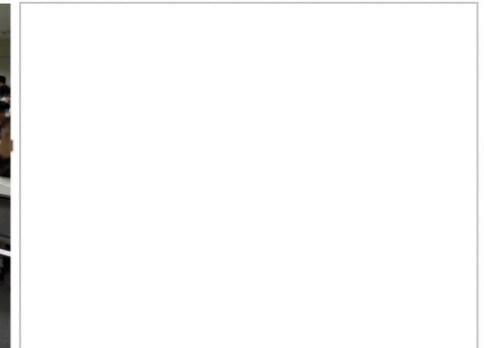
- (1) 次世代をになう児童達が、健やかに育つための支援環境として、自由に利用ができる施設。
- (2) 子育てに関わる様々な人が自由に集まり、交流するための施設。
- (3) 乳幼児の発達保障の場、生活空間を提供する施設。

## ■敷地

- (1) 別図に示すような、灘区都賀川沿いの敷地を想定する。
  - ・「児童館」敷地①約 2030 m<sup>2</sup>=東西 30m×南北 70m(変形あり)
  - ・「子育てカフェ」敷地②約 1550 m<sup>2</sup>=東西 62m×南北 25m
  - ・「保育所」敷地③約 3100 m<sup>2</sup>=東西 62m×南北 50m
- ・用途地域等  
近隣商業地域/建蔽率 80%、容積率 400%、防火地域
- (2) 河川公園に隣接する敷地で、周辺は住宅地。

## ■提出図面

- ・用紙 A1判ケント紙(仕上げ自由)
- ・配置図 1/500 or 1/1000 3つの建物外形を屋根伏図で示す。
- ・各階平面図 1/100 一階平面図には、外部空間の計画を明示する。
- ・立面図 1/100 2面以上。
- ・断面図 1/100 設計意図のわかる断面を1面以上。
- ・外観透視図(着色仕上げ) or スケッチ、模型写真でも可



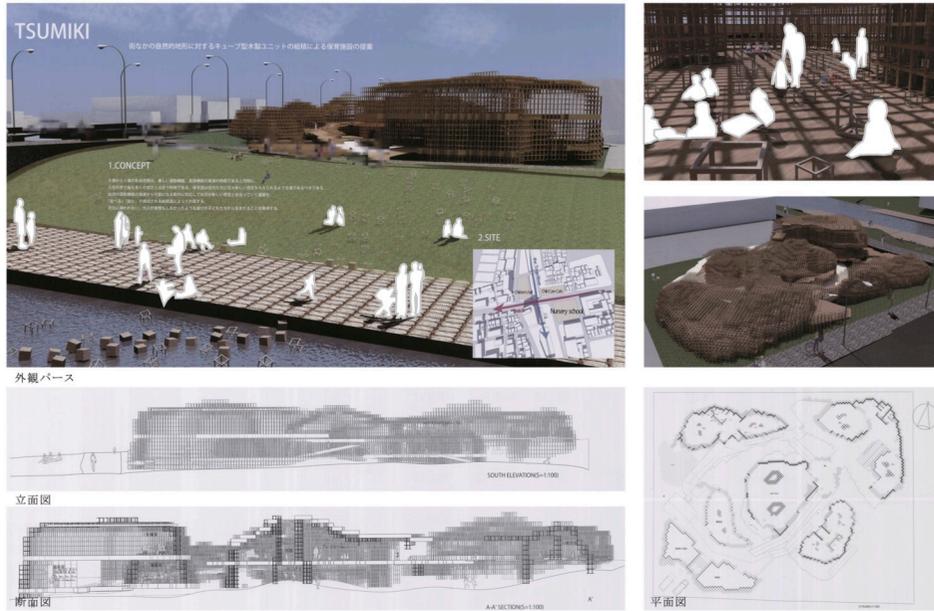
SCALE 1/5,000



### TSUMIKI

塚越仁貴

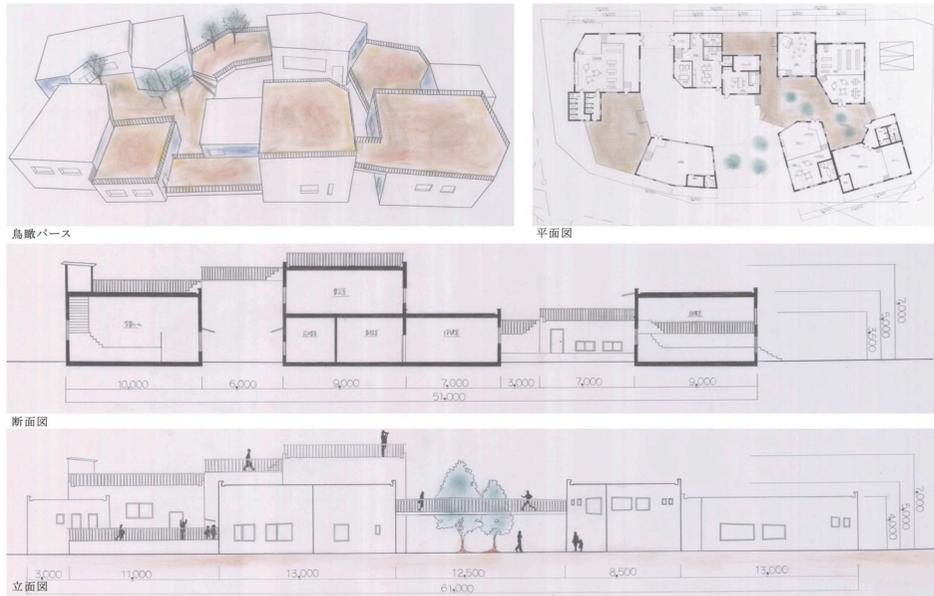
幼児の成長に伴って可能となる動作をヒントに、木製のキューブ型ユニットの「並べる」「積む」の動作で建築を構成する。子どもたちは日々新たな感覚と出会い、大人が発想もしなかった遊びを発明する。



### Children's terrace house

向久保沙耶

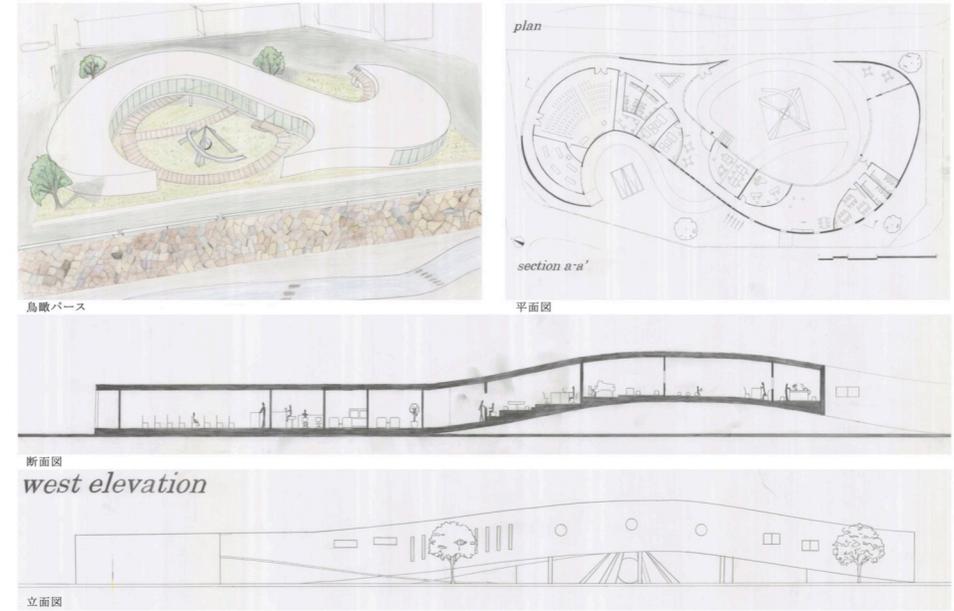
遊びの拠点となる児童館。異なる機能の棟をさまざまなレベルのテラスで繋ぐことで、子供達は敷地内を自由に走り回る。テラスからは中庭を一望し、別の棟の様子も伺える。子供達に都賀川の風を感じ気の赴くままに遊びまわって欲しい。



### Atmosphere

上西宏治

主に子供達とその保護者が活動する場としての児童館に、皆が共通して感じられるテーマとして「未来」をプラス。子供の溢れる好奇心、日々の新しいことへの挑戦、多様な将来像などから「子供は未来の象徴」とした建築。



### 連なり家の保育園

大西 将弘

同じ勾配の屋根が沢山並んだ様な外観に対し、内部は町並みの様なデザインで、建物と建物との空間をメインスペースとして活かす。デザインコードを「開く・閉じる」とし、二重屋根とガラスの開閉部が外との境界を曖昧にする。

